# 星座の日本學名に對する私見

西森紀久雄

動物學や植物學，或は岩礦學を學ばれた方々には，其等の學問上に於けるつ名はラテン語であつて，其等の日本學名は特にカナモジで書き現はされて俗名と區別されて居る事を知つて居られるであらう．

今假りに學名が漢字で書かれた場合「畵架」を「ぐわか」と讀むのか，「ゑかけ」と讀むのか人によつて異なるとすれば，是は學名の價値を失墜せしめる事となる．「牧夫」を「ぼくふ」と「まきを」と2樣に訓ずるのも同然である．是は日本語が漢字の採用を受けて其の漢字の和訓が幾通りもある爲から來た煩雜の冗長からである．

然し今日の始く電話，ラヂオが極度に發達し，通信が文字よりも話語が重用されて來つゝある現勢に於いては，日本語も漸時字で書く言葉より口で話す言葉に變つて行く事は否む事のできない事實として現はれて行く．今文部省が國定教科書に發音假名遣ひを採りつゝある事を識者は見逃がしてはならない．依つて私は天文學上の動物や岩礦にも動植物學に於ける日本學名と同じく星座の日本學名はカナモジで書かれるべき物である事を力說して置きたい．尙是に附け加へて私は其カナモジによる學名は次代の天文學研究者の爲に發音假名遣法に從つて置く事が賢明な策である事も重念して置く．

如上に依つて星座の日本學名としての試案として次の如く考へて見た．

**アンドロメダ，はいきき，ふうちよう，みづかめ，わし，さいだん，アルゴ，ひつじ，ぎよしや，うしかい，ちようこくぐ，ジラフ，かりいぬ，おゝいぬ，こいぬ，やぎ，りゆうこつ，カシオペ，ケンタウル，ケフエ，くぢら，カメレオン，りようきやくき，はと，かみのけ，かんむり，みなみかんむり，からす，コツプ，じうじ，はくちよう，いるか，かぢき，りゆう，こうま，エリダン，ろ，ふたご，つる，ヘルクル，とけい，うみへび，インドじん，とかげ，しし，こじし，うさぎ，てんぴん，おゝかみ，やまねこ，こと，テーブルやま，けんびきよう，いつかく，はえ，ぢようぎ，はちぶんぎ，へびつかい，オリオン，**

**くぢやく，ペガス，ペルセ，ほうをう，ゑかけ，うを，みなみうを，とも，らしんぎ，レチクル，いて，さそり，アトリエ，たて，へび，ろくぶんぎ，うし，ぼうゑんきよう，さんかく，みなみさんかく，トウカン，おゝくま，こぐま，ほ，をとめ，とびうを，きつね.**

上記中ケフエ・ケンタウル・ペガス・ペルセ・エリダン・ヘルクル等の採用したのは Cepheus が Cephei, Cepheids, 他も同然に語尾變化する其變化しない語幹として採つたもので，ジラフ・トウカンは最近動物園で調査した處麒麟・巨嘴鳥を小さく括弧に入れ，大きくジラフ・トウカンと記してあつたによる．其他ポンプやコンパスを採らず全部熟慮を拂つたものである．

一方私は星座の和名——日本學名を別として——に就いての考察をも述べて見たい，其は星座の名を呼ぶ時にラテン名に拘束されずに尤も白紙の立場から星座の繪は一つ一つが立派な壁畫である其の題名として和名を附することである．是は實は支那の「天文學名詞」で先鞭を附けた星座名の漢字化を眞似る樣にも思はれるが，ヘルクルは漢字化で武仙を和名で「英雄」，アンドロンダの漢譯仙后を「王妃」，ケフエを「國王」，アンドロメダを「王女」，ペルセを「勇士」，ヒドラを「巨蛇」，アルゴを「船」，ケンタウルを「馬人」，エリダンを「河」，オリオンを「巨人」，レチクルを「菱線」，ペガスを「翼馬」としたならばテーブル山も「平山」で可となり，アトリエを「彫刻室」，ジララを「麒麟」に還元し，カメレオンを「龜獅子」に，コツプを「杯」にしたならば全天の星座悉く漢字化されて私の星座の日本學名は發音假名遣ひによるべしと言ふ主張に對し，私は亦一方漢字萬能論者の再考を促して筆を擱く．(13年6月18日)

**東亞天文協會變光星觀測報告　第1號**

〔定價1圓　送料14錢〕 21cm × 11cm, 248頁

東亞天文協會員33名の1936年末までに至る數年間の觀測194星，21723個を輯錄せる學術的な報告である．

（頒布部數僅少なる故，希望者はなるべく速に下記宛申込まれたし）

**岡山縣倉敷天文臺內　東亞天文協會變光星課**